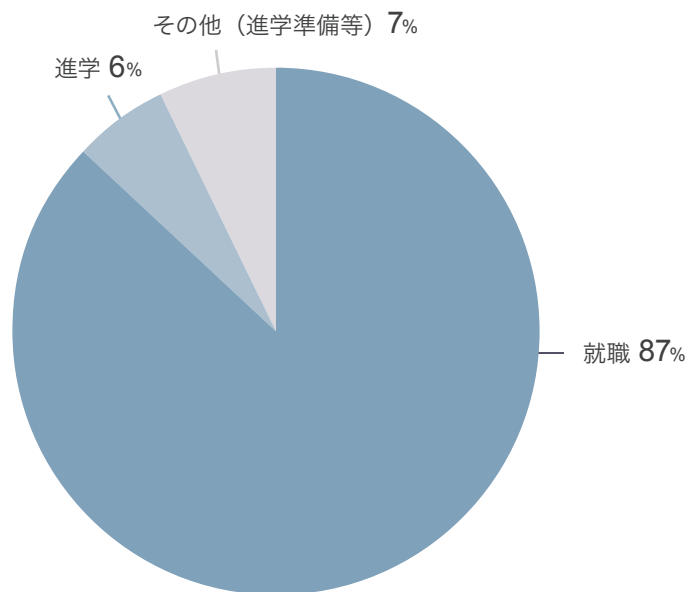


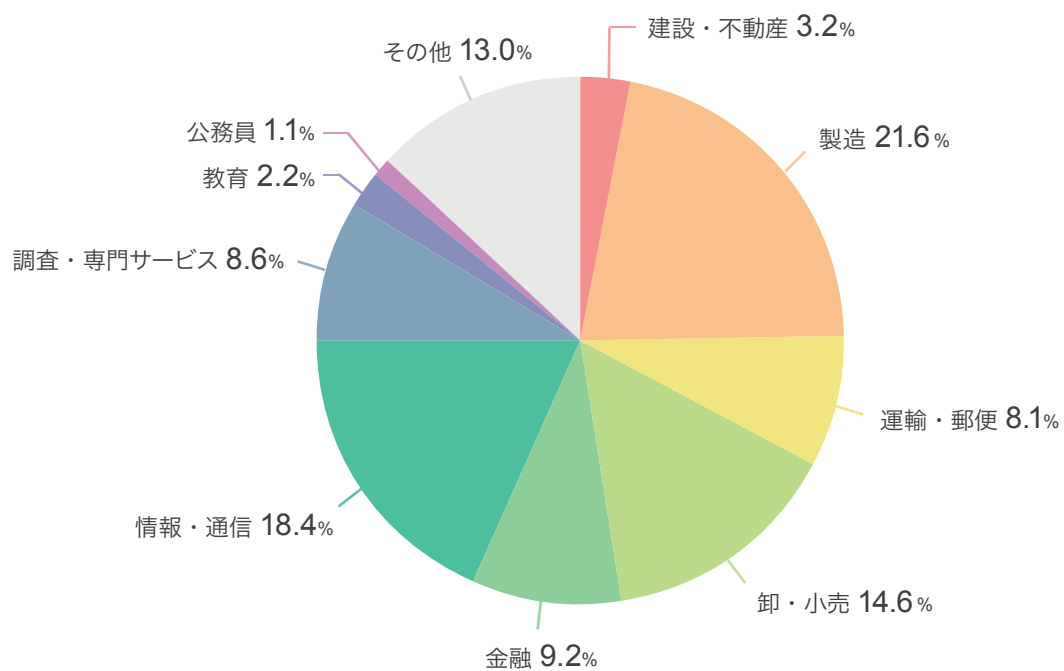
総合グローバル学部卒業生の進路・進学データ

総合グローバル学部の「2018年度進路・進学実績」は、以下の通りです。

卒業者：進路別内訳



就職：業種別内訳



総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	アクセンチュア株式会社		
氏名	水野 さくら		
メジャー	国際政治論	マイナー	アジア研究
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『豊かな学びの場』

学生時代のボランティアや塾講師、教育実習の経験から、人のため、社会のために何か役立つには、まず自分自身が成長しなければならないと感じるようになりました。その中で自分の成長が企業の成長に貢献できるコンサルティングの働き方に惹かれました。

内定先の企業は、世界に広がるネットワークから最先端の知識やスキルを身につけることができる環境が整っていることに加え、国籍や性別、年齢などを問わずだれもが活躍できる環境づくりを推進する企業文化に魅力を感じ、ここで自分なりのキャリアを描きたいと思いました。

できるだけ多くの知識を吸収し経験を蓄えることで、世界にも通用する人材として活躍することが今後の目標です。

学生時代を振り返って／FGS で何を学んだか／学んでよかったと思うこと：

学生時代に自分の大きな力となったのは、ゼミと教職課程です。

私が所属していた中国政治外交ゼミは決して楽ではありませんでしたが、多くの文献を読み、ディベートなどを通して、様々な角度から中国に関して考える機会に恵まれました。また英語精読や読書量、ディベートにおいて徹底的に鍛えられた2年間でした。ゼミで鍛え上げられたからこそ、卒論執筆も納得のいくものができるまでやりきれたのだと思います。ゼミの学習だけでなく、ゼミ内の中国のバックグラウンドを持つ仲間との交流は自分にとって楽しく学びのあるものでした。就職先でも様々な国籍を持つ方々に関わる機会が多いと思いますが、ゼミで鍛え上げられた力とゼミの仲間との交流はこの先必ず自分の力となると思います。

一方でアルバイトの塾講師が面白かったこともあり、教職課程を取りました。当初教育に興味はなかったのですが、人間の根本に関わる教育を学ぶうちにその面白さに惹かれ、一時は教師になることも真剣に考えました。教育実習の三週間は人生で最も大変かつ充実した三週間であったと思います。結局教師になる道を選択しませんでした。教職課程では座学だけでなく様々な体験をすることができ、今の自分の考え方に大いに影響を与えています。

中国政治外交ゼミや教職課程など、自分が選択した学びの場にはその分野に自分よりもずっと強い熱意を持つ人達が多くいて、教授方や同級生から大いに刺激を受けました。その環境の中で、学び続けられたことは自分の中でかけがえのない財産です。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

大学、学部の選択には不安がつきまとうと思いますが、自分の興味を大事にして学部を選んでほしいと思います。グローバルに活躍したい人、世界の問題に興味がある人にとってはこれ以上ない場であると思います。なぜなら FGS はカリキュラム等自由色の強い学部で、様々な生徒のグローバルな興味や好奇心を満たしてくれるだけの体制が十分にあるからです。1,2年生のうちは幅広く、多角的な視点で学び、その上で3年生以降のゼミで自分の興味がある分野について深めることができます。そのため現時点で学びたいことが漠然としている人も、入ってからゆっくりと考えていけます。

そして皆さんが選択した道を自信を持って努力し続けてください。最初は私も自分の興味が漠然としていました。しかし学び続け、能動的に様々な経験を重ねていくことで自分の学びたいこと、やりたいことが見えてきました。FGS はそんな学びの意欲にしっかりと答えてくれる教授方や刺激しあえる仲間がたくさんいます。みなさんが充実した大学生活を送れることを心から願っています。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職、進学		
進路先	東京都、東京学芸大学大学院		
氏名	石垣 雅史		
メジャー	中東・アフリカ研究	マイナー	市民社会・国際協力論
入学	2014 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『FGS で教員を志す方々へ』

FGS では様々な分野を学ぶことができ、したがって卒業生の進路も様々です。しかし、その多様な進路のなかでも「学校教員」の道を選ぶ学生はごく僅かなようです。本稿では、FGS で教職を目指す方々を主な対象として、私の経験を共有したいと思います。

はじめに、この学部が教員志望者に適した学部ではないということを伝えなければなりません。FGS で取得できる教員免許は「中学 社会」と「高校 公民」の 2 つですが、この 2 つの免許で採用してくれる自治体や学校は多くないでしょう。教員としての就職先の選択肢を広げるためには、他学科聴講などの手段で他教科の免許状（たとえば「高校 地理歴史」）を取得する方法がありますが、履修単位数などの点で大きな負担になります。私の場合は「中学 社会」と「中学 英語」、「高校 英語」の免許を取得しましたが、卒業予定年を 1 年遅らせることになりました。（ただし、半年間の留学にも行っています。）このような教職課程との「折り合いの悪さ」は、FGS での学びの価値を考えると非常に残念なことです。

しかし、私に現行の制度を批判する意図はありません。ここでは、FGS で同じように教職を志す方々に、卒業生としての助言をし、エールを送っていきたいと思います。本稿が皆様にとって何らかの参考になれば幸いです。

内定先を選んだ理由：

東京都を志望した理由は、私が東京出身だからという理由に尽きます。それでは話にならないので、代わりに、なぜ中高の教員を志望し、英語科教員を目指したのかについて述べたいと思います。

入学当初から、私は教職を考えていましたが、それは私自身の中学・高校での経験に基づきます。先生方に支えられながら成長できた自分が、今度は自分が生徒を支える側になりたいと思っていました。FGS を入学先として選んだのは、教員以外の道に進む余地も大いに残されることと、教科の専門性が身につくと考えたことが主な理由です。

「教科の専門性」ということからもお分かりいただけるように、私は元々社会科教員を志望していました。それが英語科志望に変わったのは、英語圏（オーストラリア）への留学がきっかけです。留学中に、「非ネイティブとして英語を学ぶ自分」の姿に疑問を持ち、帰国後から、いわゆる「他学科英語」という形で英語の教員免許取得を始めました。やがて、英語科での言語教育を通して生徒の可能性を広げ、

他者と共に生きていける人間を育てたいという思いから、英語科志望を決めました。

進学先を選んだ理由：

私は東京都の「名簿登載者」であると同時に、教職大学院進学予定者でもあります。東京都には、教職大学院進学者は「名簿登載期間」を2年間延長できる制度があり、この制度を利用して私は教職大学院に進学します。このような制度の有無および詳細は自治体によって異なるため、最新の情報を確認していただきたいと思います。

大学院に進む理由は、英語科教員になるにもかかわらず、学部での専攻が英語学や英語教育学とは直接関わりのない分野だったからです。中高の教員にも高い専門性が求められるからには、これらの分野を専門として学びたいと思っていました。

そのような思いを抱いている中で、本学と東京学芸大学が連携協定を結び、「スタートパスプログラム」という制度ができました。詳細は課程センターなどで確認していただきたいと思います。大まかに言うと、東京学芸大学教職大学院の特別選抜入試を受験することができる制度です。東京学芸大学が教員養成に特化した大学であることや、教員採用試験に合格した場合は名簿登載期間を延長できること、なにより、英語学や英語教育学で関心のある分野を専門とする先生がいることが決め手となり、東京学芸大学を志望し、進学することとなりました。

進路決定の際には、自分自身の経験や価値観、信条が重要な要因となります。自分が何を経て、何を学び、どうして今のものであり、これからどうしたいのかを考えておくといよいでしょう。

学生時代を振り返って

はじめにも言及したように、FGSは教員養成のための学部ではありません。しかし、学校教育に通ずる学びは意外にも身近なところにあることを強調したいと思います。

たとえばそれは、グローバル・スタディーズを通して得られる「複数の眼差し」—複数の次元・角度から物事を見つめ、考える力—です。他者のどのような部分に注目するのかを考え、その際の自分の立場がどのようなかを内省できるようになることは、生徒と日々向き合う教員に必要なことだと思います。

振り返って思うに、学部のカリキュラム・学びの構成はとても良く順序づけられたものでした。入学後の必修科目で、グローバル・スタディーズの概論や、オリエンタリズムについて学んだ（志願者の方は学ぶことになる）かと思いますが、それらを学部1年生の最初期に学ぶことの重要性を意識してほしいと思います。（私は4年生になって初めて意識したのですが...）カリキュラムにも必ず何らかの意図があるものなのです。これも学校教育に通ずる点ですね。

教員志望の方は、一般的には3年次に介護等体験があり、4年次に教育実習があります。これらの体験や実習は、教職課程の一部としてだけでなく、学部での学びにも大いに活きるものです。異なる他者の存在を身近に感じること、人に何かを教え伝えることは、自分自身を見つめ直す機会になります。これらの経験を通して得られる学びや気づきは、学部での研究を進める上できっと有益なものになるでしょう。私の教育実習に関していえば、ゼミで学んでいた内容（オスマン帝国史）が実習を通して体系化され、実習で得た眼差し（社会構成主義）がゼミでの学びを通して洗練されたように思います。

就職活動については、教員志望者のスケジュールは一般就職者とはズレがあります。就職活動真ただ中の時期に、教員志望者は教育実習に行くことになります。一般就職を目指す友人が内定を得ている

頃でも、教員志望者は採用試験に向けて勉強していることが多いです。（ただし、いくつかの私立学校は一般就職者とほぼ同じスケジュールで進みます。）ご友人の就職が決まったとしても、焦らないことが肝要です。自分のペースで物事を進めることは時に重要で、卒業論文の執筆についても同じことが言えます。最終目的地を決め、見失わないように進んでいきましょう。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS は、その名の通り、「グローバル・スタディーズ」を学ぶ学部です。この学部で学生は「グローバルな視座」を身につけ、「世界」を舞台に活躍できるようになることが期待されています。

FGS での学びを進めるにあたっては、こうした「グローバル」や「世界」という概念を特に意識して考えてほしいと思います。「グローバル」な問題を考える時に「ローカル」への眼差しが持てているか。私たちが「世界」と言うときにそれは何を・どこを指しているのか。「グローバル」な問題や「世界」を見つめる時の私たち自身の眼差しは誰のものであり、どこに位置しているのか。こうした内省を絶えず行うことが、FGS の学生には決定的に重要です。メジャーあるいはマイナーとして、私たちは地域研究を選択することになります。その際、その地域を見つめる私たち自身の眼差しをも批判の対象に含め、自己を見つめる眼差しを持ち続けてほしいと思います。

教員志望者にとっては、文字通りの「世界」を舞台に活躍することは難しいですが、環境が変わっても活躍できる教員を目指すことはできます。また、学部での学びを生徒に伝えていくこともできます。生徒の心に残るように教え伝えられるようになるために、熱意をもって学んでいきましょう。多忙な学生生活になるかと思いますが、応援しております。がんばってください！

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	伊藤忠商事株式会社		
氏名	浅井 万由子		
メジャー	国際政治論	マイナー	アジア研究
入学	2014 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『大学生活を振り返って』

学生時代を振り返って：

私は将来、国際社会で自分に何ができるか、その答えを見つけないかと思い、総合グローバル学部 (FGS) に入学しました。このように考えるようになったきっかけは、高校時代、海外の貧困地域や災害にあった地域の支援先と自校をつなぐ役割を担っていた経験でした。当時、漠然と国際協力に興味を持っていたため、「市民社会・国際協力論」をメジャーにする予定でしたが、私が3年次で選んだメジャーは「国際政治論」でした。1・2年次で様々な授業を受ける中で、国際協力を考える上で基盤となる世界各国の政治や経済状況などの知識が足りないことに気づき、国際政治論で学びを深めたいと考えるようになりました。このように幅広く自分の関心の深まりに合わせて学ぶことのできるのが FGS の特徴の1つです。3年次以降から、「外交政策」「比較政治学」「アメリカ政治外交」の授業を中心に取りました。同時にマイナーにアジア研究を選び、国際政治論からの幅広い視野だけでなく、現地に寄り添うローカルな視点も重要であることを学びました。このグローバルとローカルな視点を同時に学べる点が、自分が将来国際社会でどのように活躍したいか、より現実的に考えさせられる FGS の良さであると感じました。3年次からは、1年間交換留学でアメリカのウィスコンシン州立大学で学びました。現地のゼミに所属して、日本の学生にはあまりない学生間の議論に圧倒されながらも、自分の意見を主張する大切さを学び、語学力も向上しました。アメリカ大統領選挙の熱気や、アメリカの多様性の魅力と課題を肌で感じる経験となりました。

帰国後は、所属していたアメリカ政治外交ゼミで、国際社会を牽引し、様々な人種が共に暮らすアメリカという国について研究を深めました。少人数の演習では、教授との距離も近く、生徒1人1人と向き合ってくれる環境が整っています。チアリーディング部に所属していた私のゼミ以外の生活についても気にかけて下さったり、就職活動後は、ゼミ生に紹介して下さった海外研修プログラムでイランへ行ったりと、様々な経験や学びを深めるチャンスを数多く与えていただいたことに感謝しています。

内定先を選んだ理由：

私は、グローバルに活躍したい、人の力が重視される、挑戦し続ける環境がある、という3つの理由から、伊藤忠商事を選びました。留学中に、アメリカ国務省系組織でインターンを行っていた経験をきっかけに、「世界のどこにいても必要とされる人になりたい」という思いが強くなりました。この思いを実現するために、私は商社業界で、国境を越えて人をつなぎ信頼関係を構築する中で、新たなビジネス

をつくり、人々のより良い生活に少しでも貢献することに関わりたいと考えています。また、目標を持って努力を続け、可能性を広げていきたいという思いを持った社員の方々に影響を受け、成長、挑戦していける環境があると感じました。

FGS を目指す皆さんへ：

卒業する今、大学時代は長いようであつという間だと感じています。自由に使える時間が多い分、どのように過ごすかは自分次第ですが、意志があればその可能性を広げ続けることができる環境が FGS にはあります。明確に将来のイメージがある人、まだ夢が定まっていない人など、それぞれかと思いますが、総合グローバル学部は、将来グローバルに活躍したい人が幅広く自分の興味関心に沿って学び、夢を見つけるきっかけやチャンスを得ることができる学部です。頑張ってください。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	企業（株式会社クボタ）		
氏名	代島 悠貴		
メジャー	国際政治論	マイナー	ヨーロッパ研究
入学	2014 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『好奇心の赴くままに』

私にとっての大学生活とは、好奇心に任せ、様々な学び・体験ができた貴重な期間であったと振り返ります。思えば私は、高校まで一貫して地元の公立学校で育ってきました。似たバックグラウンドの仲間に囲まれ、中学、高校と部活動の傍ら受験を最終ゴールとして生活したその環境は、いわば既定路線に沿った生活であったと思います。高校では相変わらず受験を目標とした勉強ではあったものの、世界史の授業、そして海外サッカーへの興味も少なからず影響し、大学では日本のみならず世界の情勢・文化を学びたいと漠然と考え、とりわけ FGS への入学を志すようになりました。

学生生活を振り返って：

晴れて FGS に入学すると、まず周りは留学経験のある同級生、帰国子女、留学生等が多く、自分と異なるバックグラウンドの仲間に囲まれた、全く新しい生活が始まりました。高校では自分と正反対のタイプの人たちと付き合いが無かったため、当初は似た者同士で集まり会話をしていました。ただ、共通の趣味などがきっかけで様々なタイプの仲間が増えると、多様な価値観を持つ仲間から日々新たな発見ができ、とても刺激的でした。

FGS の授業においては、国際情勢を考察する際に軸となる視座を得ることができたと思っています。この視座を養うにあたり、物事を考察する際に様々な意見を吟味することが、自らの視点を生むため最も重要な過程であるのだと痛感しました。様々な視点から物事を思考する癖がついてきた頃、更に多様な視点を得たいと思い、三年次には台湾へ交換留学にも行きました。世界中の学生が集まる中で国際政治を学んだ経験は、世界への更なる興味とより広い視野を持つことに繋がったと思います。現地で出会った学生の中には今でも連絡を取り合う友人もあり、お互いの国を訪れた際には再会も果たしています。学生生活を振り返ると、私は決して何か一つの事を成し遂げたい、極めたいと考え過ぎたわけではありませんでした。ただ、高校までと違って幅広く社会を学ぶ機会を与えてくれる大学という場を活用し、やりたいことは多くやり遂げたといえます。FGS で幅広い興味に任せ様々な授業を受講し、国内外問わず多くの地域に旅行で足を運び、飽き足らず交換留学も経験させてもらいました。その時々で自分がやりたい、学びたいと感じたことに対し、素直に実行することができた学生生活であっただろうし、そこから得られたものは大きかったと実感しています。

内定先を選んだ理由：

国際経済学、比較政治学の授業にて日本の高度成長について学んだ際、日本の経済成長に大きく寄与した製造業の存在について再確認しました。加えて、真摯に良いモノを作って売るという製造業の業態に自分の性格が合うのではと考えたため、就職活動では製造業を主に検討しました。最終的には、農業機械メーカーを就職先として選びました。決め手は、日本のみならず海外でも幅広くシェアを持っているため、機械の販売を通じて世界の食を支えることができる、やりがいがある大きな会社であると思ったからです。また、内定先がグローバルに展開していることを知ったのは、実は留学中に旅行で訪れたタイの街中で見た看板でした。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS の授業は、世界中のあらゆる事象についてミクロ・マクロな視点をもって複眼的に学ぶことができます。それ故に私は、ゼミで卒論テーマを決定するまで、興味が広がるあまり何度かテーマ変更をしています。興味が広いことは、決して中途半端な勉強の姿勢という訳ではないと思っています。むしろ様々な事象に対する基礎知識や視座を少しでも養うことで、社会に出てからあらゆる物事を考える際、思考のベースとして生きてくるのではと思います。

FGS を目指す皆さんの中には、何か特定の分野を学びたいと志している人も多くいると思います。FGS には各分野の専門教授が多く在籍されているので、授業後に質問をしに行く、ゼミに参加するなどして各分野を深く学ぶことができます。ただ、FGS には幅広い学びの場が用意されているので、是非自分の一番の関心以外にも広く目を向け、できるだけ様々な分野の知を得ることをお勧めします。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	株式会社じげん		
氏名	大場 万莉央		
メジャー	市民社会・国際協力論	マイナー	ヨーロッパ研究
入学	2014 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『事業を通じた社会課題解決を目指すまで』

内定先・進学先名を選んだ理由：

①ビジネス・経営の知識を学ぶ機会が大きく開けている

将来的には国際協力のフィールドで活動していきたいという思いがあるため、まずは自分の武器といえるようなスキルを磨いていける道は何かを考えました。これまで実在する社会課題をビジネス商材としてどのように取り入れ、直接お金を作り出していけるのかというビジネス・経営の能力を全く身に付けてこなかった私にとって、早期からビジネス・経営の知識・経験を積む機会を掴んでいける企業文化は魅力的でした。

②多様な業界に興味関心を持つ人材が働いている

「新興国との理想的な関わり方とは何か」をテーマに過ごしてきた学生時代は、学内外問わず自然と新興国との関わりを持つ人たちとのコミュニティに囲まれ過ごしていました。新たな価値観や視点に出会う機会を増やしていきたいと思い、自力では出会うことができないような高い志を持つ人々が多く集まる環境下に身を置くことにしました。

③反骨精神が掻き立てられる

優秀な先輩に毎年豊富なビジネスの知識や経験を持った新入社員が活躍する社内において、確実に仕事ができない人 NO.1 になるなと感じたことが最後の入社決め手でした。元々、私が理想とする考えの基ソーシャルビジネスを展開する企業に就職すると決めていました。しかし、あまりの心地よさと納得感から、自身の成長意欲を保てるか不安になりました。というのも、過去の辛く苦しい経験は、今の自分をつくるために必要な経験であったと考えているためです。困難が最も立ちほだかりそうな内定先は、これ以上ない私にとって格好の成長の場として映りました。

学生時代を振り返って：

分らないこと・迷うことが多かった分、とりあえず目の疑問に体当たりして突き進んできた 5 年間。あっという間に過ぎてしまったと感じる一方、将来的には事業を通じた社会課題解決に取り組んでいきたいという目標を見つけることができ、「新たなスタートラインに立つ準備を行ってこられたのか

な？」とも感じています。(FGS を志望した理由～活動内容等を述べたので、FGS を軸にどんな活動ができるかの参考にしてみてください。)

私は、高校1年間アメリカに留学中にお世話になったホストファミリーがエチオピアの支援団体を運営していたことをきっかけに、新興国との関わりを持つこと・支援を行うことへの責任と現地への影響について関心を持ちはじめました。支援や開発学に関連する本を読んだり、アジア新興国出身の在日外国人の子供たちに勉強のフォローアップを行うボランティアに参加するも、自力で学ぶことに限界を感じていた時、開発学とアジア新興国について学ぶことができる FGS という新設学部が開設することを知り、迷わず第一志望をこの学部に変更しました。

それからこの5年間は「新興国と自身との理想的な関わり方とは何か」をテーマに活動を続けてきました。学部の授業で学べる内容はどれも魅力的であり、実際に自分の目で見て事実を確かめてみたいという気持ちを掻き立てられるモノばかりだったのを今でも覚えています。

気づけば1・2年次にかけて、インドのマザーハウスでボランティアや、アジア新興国の社会問題についてリサーチを行う学生団体で支援が被支援者に与える影響についての調査、新興国の学生が開発学をどのような視点で学んでいるのか理解を深めるためにフィリピンの大学では開発学の専攻をしました。その中で学んだことは、無償で何かを与え続けることへの限界と、相手が本当に必要としているものを理解する難しさでした。

利潤を追求するために、消費者理解を徹底し、必要とされるモノの提供を行う企業の機能に関心を持ち始めた3年次には休学を利用してインドにあるコンサル企業でインターンを行いました。高い利益の獲得を求める企業も多い中、志高いミッションを掲げ社会課題の解決に向けインドに進出する多くの企業と関わることを通じ、将来的には社会課題をビジネスを通じて解決することができる人間になろうと強く思うようになりました。

また5年次にインターンをしたアジア新興国の社会起業家の事業コンサルと国内の人材育成を行う事業型 NPO では、本気で社会課題の解決を目指す「オトナの本気」がどれほど多くの人の共感を生み、社会を変えていくパワーを作り出せるのか、はじめて人の力を目の当たりにしました。

大学生活は、人・環境に恵まれ、これからどのような人間として生きていきたいかのヒントを沢山もらった重要な期間であったと感じています。今後は、与えられる人間ではなく、自身が与える側の人間として生きていけるようになりたいと改めて感じる5年間です。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS という環境は学部生1人1人の「挑戦」に全力で応えてくれる学部であり、卒業後も変わらず互いに高め合っていける仲間に出会えた場所です。恵まれた環境下で興味関心分野について学び続けることができた実感しています。

何かに挑戦する機会は自分で作っていくことができますが、自分のいる環境がその挑戦をサポートしてくれるか、そもそも挑戦すること自体を可能としてくれるかはわかりません。

私自身、留学先の単位換算や休学と卒業時期の決定についてスムーズに話を進めてこられたのも、教授陣・FGS 事務局に方々が FGS という学部を学生と共に作り上げていこうと考えてくださっていたからだと感じています。実際に他学部の学生から「そんなことできるの？」という反応が返ってきたことがあり、学生・教授陣・FGS 事務局との距離の圧倒的な近さは FGS の強みと言えると確信しています。

自分にとって最適な挑戦のフィールドはどこになるのか、学生という身分において、自分の意志でコントロールできること、できないことがあることも留意してぜひ検討してみてください。皆さんにとっての新たな挑戦の場が見つかることを祈っております！

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	日本生命保険相互会社		
氏名	R.H		
メジャー	国際政治論	マイナー	中東・アフリカ研究
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『自分の視野を広げる場所』

内定先を選んだ理由：

私が内定先を選んだ理由は、「より多くの人々と長く関わることができ、安心を届けられることができる」と感じたからです。アルバイトの経験から、人々に幸せを届けられるような仕事に就きたいと考えていました。生命保険は多くの人が長い期間加入しており、万一の際のお役に立てるため、ぴったりの仕事であると感じました。また、私は結婚や出産後も長く働きたいとと考えているため、転居・転勤の地域が限定されていながら、広いビジネスフィールドで働くことのできる「エリア総合職」という職種があることも魅力的でした。

学生時代を振り返って：

入学当初は、漠然と国際政治について学びたいとは考えていたものの、何か特定の問題について強く関心を持っているという訳ではありませんでした。FGS のカリキュラムでは、1 年生や 2 年生の間で、国際関係論や地域研究について広く学ぶことができるので、様々な授業を幅広く履修しているうちに段々と研究したいテーマが見つかっていきました。入学当初から、国際政治について学びたいとは考えていましたが、国際政治の授業だけでなく、国際協力・市民社会の分野や、地域研究の授業を履修したことで、何事も多角的な視点を持って考えられるようになり、とても良かったと思います。

卒業論文では、アフガニスタンの平和構築について研究しました。この研究では、アフガニスタンではすでに平和構築活動が行われたにも関わらず、現在でも治安が安定しない理由を、今まで行われてきた平和構築活動がアフガニスタンの農村社会や伝統社会の自己統治に着目してこなかったからではないかと考え、研究を進めました。この研究でも FGS で培った多角的な視点を活かせるのではないかと思います。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS では、メジャーとマイナーを選択する必要があり、幅広い分野について学ぶことができます。すでに学びたい・研究したいことが決まっている人もそうでない人も、まずは、様々な分野の授業を履修してみてください。授業を受けていく中で、多くの知識を吸収できるだけでなく、様々な角度から物事を考えられるようになり、研究してみたいと思える領域、テーマが見つかるはずです。FGS の授業だけでなく、他学部の授業を受けたり、大学で開催されているセミナーに参加したりすることも、自分の視野を広げるにはとても良いと思います。上智大学には、海外で学ぶ機会が多く用意されているので、留

学やプロジェクトに参加することも良いと思います。あっという間に過ぎてしまう4年間でどのように過ごすかは自分次第なので、自発的に行動して充実した大学生活を送って欲しいです。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	東日本旅客鉄道（JR 東日本）		
氏名	R. G.		
メジャー	国際政治論	マイナー	アジア研究
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

内定先・進学先名を選んだ理由：

大学入学までの 8 年間海外に在住していましたが、一時帰国のたびに日本の鉄道のサービスの細かさや設備に感銘を受けていました。そのため就職活動では「自らが感じた日本の素晴らしさを世界に広めたい」と思い鉄道業界を志望しました。その中でも内定先を選んだのは東日本という広い地域にまたがるからこそ、各地への貢献ができると感じたからです。また以前地方でボランティア活動を行った際、公共の交通機関で東京から向かうには JR しか方法がないと現地の方から伺ったので、都心と地方を結ぶ大きな役割を担っていることも魅力の一つでした。

学生時代を振り返って／FGS で何を学んだか／学んでよかったと思うこと：

FGS では国際政治論をメジャーで、アジア研究をマイナーで勉強していました。1 年の時に前嶋和弘教授の「アメリカとグローバル化」という授業を履修した際に 8 年間住んでいたオーストラリアとアメリカが似ていることや、多様性や差別が取り上げられた際には自分の過去とも繋げて考えられたことからアメリカに強い関心を持ちました。そのためゼミも前嶋先生のアメリカ政治外交演習を選び、卒論ではオーストラリアの移民排斥主義とアメリカの影響について書きました。

マイナーでアジア研究を選んだのは父の祖国であるスリランカについての学びたかったためです。スリランカには在住したことはないため知らないこともたくさんありましたが、授業を通じてスリランカだけでなく南アジアの文化や政治、経済に関して理解を深めることが出来ました。

卒論で「オーストラリアの移民」という自分と深い関連のあるテーマを選んだことやマイナーでバックグラウンドでもあるスリランカについて学べたことで、これまでの人生に関して前向きな考えを持てたことや、学術的な側面からの理解が深まったことが FGS で学べてよかったと一番感じたことです。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS の魅力は大きく分けて二つあると考えています。一つ目は幅広い分野について学び、その中から自分の関心のあることを極められることです。1 年の時は必修の授業を通じて国際関係論と地域研究の基礎を知ることができ、一口に「グローバル・スタディーズ」といってもそれぞれが奥の深い研究であるため、幅広い知識を得ることが出来ました。2 年以降はその中から自分の専攻を絞って授業を選択できるため、どの授業も熱意を持って取り組むことが出来ました。各研究に対する広い基礎知識と、専攻分野に関しては深い専門性を勉強できたことは FGS の特色ではないでしょうか。

二つ目の魅力は FGS の学生にとっても多様性があることです。先述の通り FGS では幅広い分野について学

べるため、学生それぞれの興味のある分野も違います。そのため他の学生との何気ない日常会話でも自分の専門ではない領域について知る機会があり、勉強になることがありました。また行動力がある人も多かったので、留学や短期プログラムに参加している人の姿は自分のモチベーションにも繋がりました。FGS に入れば楽しいだけでなく、実りのある学生生活を送ることが出来ると思います！頑張ってください！

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	株式会社エス・ティー・ワールド		
氏名	安生 圭騎		
メジャー	アジア研究	マイナー	市民社会・国際協力論
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『自由から得た発見』

内定先・進学先名を選んだ理由：

高校時代に体験した海外研修が与える旅行の力に魅せられて心のどこかで旅行業という職についてみたいと考えていたため、旅行業界を中心に就職活動していた。また実際に大学在学中にアルバイトでためたお金で様々な国に旅行し、海外旅行の楽しさを世にもっと広めたいと考えたことも由縁である。この旅行では自分のメジャー研究でもあったアジアを中心に行くことが多かったがどの旅行においても FGS で学んだ知識や知見がより旅行を深いものとしており、より旅行が楽しくなったことも理由の一つである。これらの理由から海外旅行専門の会社ということにも惹かれ選択に至った。

学生時代を振り返って／FGS で何を学んだか／学んでよかったと思うこと：

大学入学当初は、突然と厳しかった校則から解き放たれ自由を獲得したものの、何をしたらよいのかわからず右往左往している時期があったが徐々にそれをうまく活用しなければならないと思うようになったことを鮮明に覚えている。そこからは自分がもともと好きだった旅行に行こうと考えるようになり、その旅行に行くためにただひたすらにアルバイトをし、貯金がたまるとすぐに旅行に出かけていた。旅行を通じて FGS で学んだ政治や歴史、文化など幅広い知見を得たことでより興味深い旅行になったと確信している。例えば高校時代に訪れたシンガポールと大学在学中に訪れたシンガポールは同じ国であるにもかかわらず全く違う国のように感じるできるようになったといったものである。具体的には、高校時代のシンガポールのイメージはただただ綺麗で国全体が観光地なんだという程度にしか感じなかったが、様々な宗教や人種などがいる多様性の中にあるといった知識をもって渡航した大学在学中のシンガポールはまるで違うように見えた。街を歩けばお寺や教会、モスクがあり、現地の食べ物を見ても宗教の配慮がされているなど様々な局面で興味深い旅行となった。このように大学で学んでいることは趣味にまでも汎用性があることが分かり、大学での学びも非常に楽しいものになった。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS で学べることは政治、経済、歴史、文化など幅広く様々なところで生かすことのできる素材を一度に学ぶことができる学部であると思います。これをうまく使って趣味や将来にどれだけ応用できるかは皆さんにかかっていると思います。幅広い知見を得てより自分の将来を鮮やかにするためにもぜひ FGS に入学して自分の学びたいことを軸にしつつも取り組んでみてください。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	Dandelion Chocolate Inc.		
氏名	C.K.		
メジャー	中東・アフリカ研究	マイナー	市民社会・国際協力論
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『グローバルとローカル』

Dandelion Chocolate は、カカオ豆の買付からチョコレートの製造・販売までを一貫して自ら行う会社です（このようなチョコレートの製造スタイルは **Bean to Bar** と呼ばれます）。小規模生産ではありますが、農園を直接訪れて豆を仕入れるため持続可能性が高く、社会的好影響も多くあると考えこのビジネスの一端を担いたいと考えました。

学生時代を振り返って／FGS で何を学んだか／学んでよかったと思うこと：

私の学生生活は「アフリカ」と「チョコレート」で構成されていました。私は元々アフリカ国際協力の道を志して FGS に入学しましたが、1 年生の終わりに **Bean to Bar** のチョコレート専門店でアルバイトを始めたことがきっかけでビジネスやグローバルバリューチェーンに関心を持ちました。それらとアフリカ研究をリンクさせた勉強がしたいと思うようになり、結果的にアフリカ研究ゼミに所属しガーナのカカオ産業とチョコレートビジネスについて卒業論文を執筆しました。大学でアフリカやグローバル社会の勉強をし、バイトでカカオやチョコレート、産地の勉強をするという学生生活を送りました。

FGS での学びの中で最も大きかったものは、物事を多角的に捉える視点です。FGS では地域と領域を組み合わせるメジャー・マイナーを設定するカリキュラムになっており、まさにグローバルとローカル両方の視点を育む環境が整っていました。私の場合は強い関心を抱いていたアフリカについてはゼミでとことん追求し、同時に政治や経済、ビジネスなど他のことも沢山学ぶことができました。世界で起こる事象を様々な角度から分析・考察できるようになったことは私の大きな財産となり、特に卒論執筆中にそれを強く実感しました。FGS で得た多角的視点は、今後 **Bean to Bar** チョコレートビジネスに携わっていくうえで大いに活かされると確信していますし、グローバル社会でどんな仕事をするとしても必ず役立つものだと思います。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

上記のように、私は FGS で勉強ができて本当に良かったと思っています。アフリカ研究をしながらカカオ・チョコレートの世界に出会い、それらを繋げた勉強ができたことは FGS にいたからこそ可能だったのではないかと思います。指導して下さる先生方や先輩方、尊敬し合える友達とも出会えて本当に充実した 4 年間を送ることができました。

FGS では偏った思考や視点、固定概念から抜け出し、広い視野を育むことができる環境があるため、日本だけにとどまらず世界を舞台にして生きていきたい、世界に何か貢献したいという方にはぴったりの学部だと思います。ただ、FGS の恵まれた環境を最大限に活かすには、自分の興味関心を基に「自ら学びに行く」姿勢が重要になってきます。様々なことにチャレンジしながら常に学びに貪欲でいて欲しいなと思います。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	進学		
進路先	広島市立大学大学院平和学研究科		
氏名	小杉 拓巳		
メジャー	国際政治論	サブメジャー	ロシア・ユーラシア地域研究
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『FGS での学びと、選択肢としての進学について』

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

18 年間田舎暮らし、グローバルとは程遠い環境に慣れていた私。東京都心でのキラキラした大学生活に憧れた、ごく普通の高校生であったように思います。楽しい大学生活を過ごし、“いい企業”に就職し、“いい人生”を送ろうと思っていたはずが、大学院に進学して研究を深めることになりました。

FGS に入った時と、FGS から出ていく時で、こうも考えが変わるものかと思います。研究対象、政治観、進路……。入学前の段階から、大学在学中、また卒業後の自分自身を見据えることは非常に難しいことです。特に、閉鎖的な環境で育った私は、FGS に入学して同期の学生や教授、周囲の人たちから色々な影響を受けて、思い悩みました。学部生の 4 年間、自分が世界の何を問題に思い、どのような研究を進めたいか、という欲求は変化し続けていました。入学時は東南アジア研究を志望していましたが、2 年生になるとロシア語学科の学生に間違えられ、FGS 生には退学したのではないかとと思われるほどにロシア・ユーラシア地域研究にのめり込んでいました。

このように、研究対象を柔軟に変えられるというのは、FGS のカリキュラムの一番の特長であるとともに、FGS を志望する皆さんにとって、魅力的な制度であると確信しています。また、移りゆく興味・関心を深掘りするにあたり、FGS の教授陣は必要なサポートを惜しみません。そのような環境があるからこそ、有意義な大学生活を送ることができました。

進学を選んだ理由：

FGS は、グローバルとローカルの異なる視座から「世界を立体的に捉える」人材を育てることを目標とする学部ですが、私は未だに世界を立体的に捉えることはできそうにありません。

それが、大学院に進むという決断の理由でもあります。学部は、世界を立体的に捉えようとする、きっかけを与えてくれたように思います。

平和を学ぶに相応しい広島の街で、国際平和とは何かという問いについて、研究を更に深めたいと思います。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	東京海上インターナショナルアシスタンス株式会社		
氏名	Y.O		
メジャー	アジア研究	マイナー	市民社会・国際協力論
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

内定先・進学先名を選んだ理由：

私は幼い頃から重なる父の転勤で、海外に移り住み転校を繰り返してきました。突然インターナショナルスクールに入れられ、言葉の壁に苦しんだこともありましたが、異なる文化・言語・宗教を持つ多くの友達に恵まれました。周囲の人々が慣れない環境に戸惑っていた私に手を差し伸べ、受け入れてくれたように、今度は私自身が世界中の人々の役に立つ仕事をしたいと思い選びました。また慣れない環境で生活をしてきた経験のある私だからこそ、旅行や留学で海外を訪れている日本人、そして日本を訪れている外国人が困っている際には力になれると思いました。

学生時代を振り返って／FGS で何を学んだか／学んでよかったと思うこと：

私は自身の海外経験から、異なる他者といかに共存するかに興味を持ち、3 年次からはアジアの多民族国家の共存政策について学びました。海外で暮らし、異なる者同士も自分の価値観だけを押し付けるのではなく、互いに相手を尊重することで共存できることを肌で感じ学んできましたが、依然として差別や紛争が存在している現状に疑問を抱いたからです。

私が暮らしていた東南アジアは多民族国家ですが、同じ多民族国家の中東やアフリカと比べ、比較的共存が上手くいっている地域です。そこで東南アジアにおける共存政策について研究をすれば、共存の鍵を見つけることができると考え、卒業論文もベトナムの共存政策をテーマに執筆しました。

しかし、研究を通して明らかになったのは、共存政策は完全なものではないということでした。共存に不可欠な相互理解の為には、国の政策はもちろん、民間レベルの人と人との関わりこそが重要であるということを強く認識させられました。だからこそ、これから社会に出るにあたり、相手の立場に立ち物事を考えられる人であるという考えを大切に、世界中の人々との相互理解を促進できるような人になりたいです。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

4 年前、FGS で学ぶことを選択して本当に良かったと思っています。熱心な先生方、そして向上心に溢れた仲間から良い刺激を受け、自分自身の関心のあるテーマを見つけ学ぶことが出来ました。そして、今後自分自身が人としてどうありたいか、またどう生きたいか、これからも大切にしていきたい価値観を見つけることが出来ました。皆さんも FGS で充実した 4 年間を過ごすことができるよう願っています。応援しています。頑張ってください！

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	株式会社リクルート		
氏名	小嶋 裕子		
メジャー	国際政治論	マイナー	アジア研究
入学	2015 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『成せば成る。』

内定先・進学先名を選んだ理由：

私がリクルートを選んだ理由を一言で言えば、「ここでなら自分らしく成長でき、ここでなら自分のやりたいことに向き合うことができる」と思うことができたからです。

就職活動において、私が重視していた点は大きく 5 つありました。

1. 自分の目標・夢が達成できるか。
2. 基本理念や価値観、目指す世界観に共感できるか。
3. 自分らしく、自分の強みを発揮し、育てることができるか。
4. 成長できる環境があり、キャリアの選択肢を増やすことができるか。
5. その選択をした時に自分だけでなく、家族や周りの人が幸せになるか。

そして「新しい価値の創造」、「社会への貢献」、「個の尊重」を掲げるリクルートであれば、以上 5 つの軸を達成することができるのではないかと考え、入社を決めました。

中でもリクルートの採用サイトで出会った言葉、「KEEP YOU WEIRD」への衝撃とその言葉に付随する“人”への考え方に強く共感したこと、基本理念や柔軟性を選考段階においても実際に体感することができた経験が入社への決意を固めるものになりました。

学生時代を振り返って：

常にその時の自分の探求心と好奇心に従い、行動することができた学生時代でした。

私は、FGS を受験した高校生の頃から現在に至るまで、自分の関心分野が大きく変わる経験をしました。高校生の私は当初、少数民族の問題や国際協力に大きな関心を抱いていました（今の私を知っている先生方や友人は驚かれると思います）が FGS 入学後、待っていたのは多くの選択肢と学びの機会。FGS

のカリキュラムを通して多種多様な講義を履修していくうちに、他分野への関心が大きくなっていきました。中でも、後にゼミの担当教授となった樋渡先生の「外交政策」の講義や JICA の職員の方々による輪講等は、国際政治だけでなく、外交や安全保障に大きな関心を寄せるきっかけになりました。

また、FGS の外、上智大学を越えての活動が私の学生時代において、大きな財産となりました。大学 2 年生の時に参加した、前駐米大使であった藤崎先生による全学部生対象のゼミへの参加をはじめ、全 8 大学の学生有志が参加した次世代養成プログラム、4 大学対象の米国短期研修プログラムへの参加など、4 年間を通して大学を超え、他大学の学生と切磋琢磨できたことは非常に有益でした。

学部内外で、多くの人々と出会い、様々なことに挑戦した経験はかけがえのない経験です。様々な経験ができたのも、FGS の一学生であったからこそだと感じています。勿論、初心貫徹で入学から卒業まで自分の関心分野が変わらず、それを極めることもできる環境も FGS にあります。ですが、あえて私は大学 4 年間で「自分が学びたいことをその時、全力で学ぶこと」を選択しました。これは FGS、上智大学の環境を自分なりに最大限活用し、先生方、そして家族、友人の存在があったからこそできたことだと思います。

今振り返れば、色々なことに関心を持ち、その関心や好奇心を行動に移したからこそ、多くのことを学ぶことができ、今の私がいるのだと思える 4 年間でした。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

この場で皆さんに伝えたいことは 3 つあります。

1 つ目は、FGS では“自分が学びたいこと”を学べる環境と機会があることです。

学部 HP にも「学生諸君一人ひとりの興味や関心に基づき、学びの対象を『幅広い選択肢から柔軟に選ぶ』ことができます。」と断言されていますが、これは本当に本当です。

前述のように、私は 4 年間で自分の関心分野が大きく変化することを経験しました。勿論、入学当初から抱いていた関心分野を貫く学生もいます。前者においても、後者においても、分野横断的に多種多様なことを学べる環境は大きな糧となると思います。FGS、上智大学という環境を最大限に活かして欲しいです。

2 つ目は、4 年間で自分の興味関心分野が大きく変わる可能性もあるということ。そして、柔軟に学びの選択ができるのが FGS だということです。

FGS を目指していた高校生の自分は、大学卒業後にリクルートに就職するとは、ましてや民間企業に就職することすら、全く予想していませんでした。つまり、大学 4 年間、何が起こるか分かりません。

大学 4 年間、多くのことに触れ、見聞きし、経験していく中で、自分が想像もしていなかった世界に辿り着くかもしれません。今、確実に言えることは、未来は誰にも分からないということ、そして決し

て不変ではないということです。

FGS では大きく学部の中だけでも 4 つの領域を学ぶことができ、その他にも外国語学部の領域も履修することができることから、柔軟に学びの選択をすることが他学部よりも可能だと思います。是非様々なことを吸収して、選択肢、可能性を広げていってください。

最後の 3 つ目は、FGS だけに留まらず、他学部、そして上智大学の外との関わりを築くことの面白さです。

FGS で学んだことは必ず外に出た時に活かすことができ、FGS の外で学んだことは必ず FGS で活かすことができます。FGS で体系的に学びインプット、アウトプットしたことを、FGS の外でもアウトプットすることは大学生としては当たり前かもしれませんが、とてつもなく面白いです。FGS、そして上智に留まらない、外での学びや経験がより FGS での学生生活を豊かにすると思います。

最後になりましたが、一度きりの人生です。自分自身の可能性を信じて、自分がその時やりたいこと、自分の気持ちに精一杯向き合って行動に移せば、きっと世界が広がると思います。

幸運を祈っています！

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	進学		
進路先	東京学芸大学大学院教育学研究科(教職大学院) 教育実践専門職高度化専攻		
氏名	松河 晴佳		
メジャー	市民社会・国際協力論	マイナー	中東・アフリカ研究
入学	2014 年 4 月	卒業	2019 年 3 月

『FGS が導いてくれた道』

私は FGS の学生には珍しく、教職課程を履修し、卒業後もより実践的な教授法を学ぶために教職大学院というところに進学します。教員を目指しているのなら、教育学部に行ったほうが良かったのではないかなと思う人もいるかもしれません。ただ、今 FGS での 5 年間を振り返り、FGS 卒業生として教員を目指すことができることをとても楽しみに、また誇りに思っています。

そもそも高校 3 年生の頃の私は、女子教育の重要性を主張していたマララ・ユスフザイさんのタリバンによる襲撃事件に衝撃を受け、ジェンダー問題や中東地域、そして宗教による考え方の違いなどについて勉強したいと考えていました。そんな時大学のパンフレットで目にした、「グローバルとローカル双方向の視点を学べる」という FGS のキャッチフレーズは、当時の私にとって非常に魅力的でした。実際、期待していた通り私は FGS での 5 年間で、ある問題に対するいろいろな立場からの見方、日本、世界で起きている問題を「自分事」として考え、アプローチしていく方法、身の回りにあふれている多様性を認め合うことの重要性とまたそれがなされていない人権問題の現実などを学ぶことができました。実は、教育学部出身でもない私が現在、教員を目指している理由は生徒に FGS で学んだ、多様性を受け止めることの重要性を教え、あらゆる問題を「自分事」として考えるための想像力を身につけさせたい、また一教員として生徒一人一人の人権を守りたいと考えているからです。そのために、より高度な教授法を勉強しに卒業後は大学院に進学します。

学生時代は上記のように FGS に軸を置きつつも、一方で大学から提供されている本当に様々な活動に参加しました。サークル活動を通して行った海外教育支援ボランティア、実際に一般財団法人で 2 か月間働いたグローバルインターンシップ科目、カンボジアエクスポージャーツアー、交換留学、そして教職課程、5 年間で幅広いサービスを活用できた自信があります。どれも自分がその分野に興味があり、挑戦してみようという思いで参加したのですが、今ではすべてが糧になっていると思います。そのように自分の目を見て、体験したことがさらに FGS での学びを深めてくれました。

これから FGS を目指す皆さんには、やはり自分が FGS で何を学びたいのか、何に関心があるのか、その学びへの好奇心を忘れずにしてほしいと思います。その好奇心をもって FGS に入ってこられた方はきっとその後もいろいろなことへ挑戦することができると思います。時にはその関心分野が変わっても何

の問題はありません。それは一歩ずつ前進している証でもあると思います。大学入学後に開かれている幅広い選択肢を楽しみにしつつ、ぜひ大学への扉を開いていってください。